

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|----------------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 0390200301 | | |
| 法人名 | 株式会社 風和璃 | | |
| 事業所名 | グループホーム ひなた | | |
| 所在地 | 〒027-0203 岩手県宮古市津軽石第13地割208番地160 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年7月25日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年11月8日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閑静な住宅街に立地し、山々や海の眺めがきれいに見えます。さらに緑豊かな環境に恵まれ季節の移り変わりが絵画のように見れる。料理の評判も良く、季節に合わせた品目やバランス等を考えて提供。理念の「安心と尊厳のある自立生活を支援致します。」として利用者個々に合わせた生活を考えております。家族とのコミュニケーションも密にとり本人の思いや訴えの情報を共有してサービスにつなげています。また、生活の中での本人に合わせた機能訓練にも力を入れており、寝たきりで褥瘡があった利用者様は褥瘡がなくなり離床時間が長くなっております。拘縮予防運動や歩行訓練・お手伝いによる機能維持を本人の負担にならないように行っております。日々の利用者様の生活の中の会話や表情の観察、本人の立場になって考え想像し、表現できるものだけでなく訴えを聞けるように努めています。消防訓練にも参加していただいたり地域との交流も取れています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、山あいの眺望が豊かで静かな環境にあり、事業所理念と方針から利用者の安全と尊厳のある自立生活を支援し、地域社会の一員として日常生活を送れる事業所を目指している。「利用者の思いや意向の把握」を重要視し、コミュニケーションに支障のある新規の利用者には、根気よく本人の雰囲気、表情、動きを観察し、職員の想像力を膨らませたケアに当たった結果、本人の意欲と機能回復が再現し、意思疎通が驚くほど改善するなど、利用者への懇切丁寧な介護に努めている。日々の食事も大切にしており、利用者の嗜好や食欲を日常的に聴き取りし、利用者視点での食事メニューを考え提供している。食事作りには、利用者も参加し役割をもって関わっているほか、季節ごとの行事食や、道の駅での外食、ハンバーガーショップのテイクアウトなども取り入れ、利用者喜んでもらえるよう取り組んでいる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|------------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会 |
| 所在地 | 〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号 |
| 訪問調査日 | 令和4年9月14日 |

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 施設内のホールに「理念」「方針」を掲示している。月一回のカンファレンスで毎回管理者から理念と方針を宣言し開催している。出勤時に目視で確認してから業務に入るようにしている。 | 開設当初に決めた理念を具体的方針とともにホールや入口に掲示し、カンファレンスの際に職員で復唱するなど、職員意識の高揚を図っている。日常生活での利用者への声掛けから、利用者を人生の先輩として料理づくりなどを教わりながら、家庭的雰囲気の中で利用者の個性発揮を促す生活支援を実施し、理念や方針の実践に努めている。 | 今後、理念や方針を一層事業所運営に反映させていくため、理念の趣旨や考え方を年間の活動計画に盛り込んだりケアプランに反映させるなど、より実践的な取り組みを期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 自治会に加入し、地域の方々にも運営推進会議に参加していただいている。近所の方から草花や樹木をいただいたり、散歩や避難訓練時に利用者ごと近所の方々も参加されて挨拶を交わしている。消防団大演習等で、職員が交流する機会もあり顔を覚えられる関係づくりに努めている。 | 開設時から弘川自治会に加入しているほか、総会にも職員が出席している。コロナ禍前は事業所の夏まつりに地域住民との交流を図っていた。近隣住民と日常的に挨拶を交わし、職員は地域の草取り活動に一地域住民として参画している。また認知症高齢者のケアを行っている事業所の強みを活かし、地域住民からの相談にも預かっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域の方に、認知症が何か、症状はどんなものがあるのかと質問をされる機会があり、認知症の特徴や、認知症の方々への支援方法等を説明し、理解を深めている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 新型コロナ感染予防の為、運営推進会議を書面会議として、資料を送付して意見等を取りまとめる方法で開催している。 | コロナ禍により参集での開催が難しいため、最近では書面会議での開催としている。事業所から会議資料を委員に届けながら、前回の会議資料に対する意見や提案をいただけるよう工夫しながら、意見の集約等を図っている。会議資料の工夫や委員の構成を見直し、併せて会議の在り方を考えていきたいとしている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市町村担当者に、電話連絡や書面会議等のやり取りでお会いする機会がある際は、施設の状況や市内の新型コロナ感染状況、感染防止対策等についてお話をしている。市が開催している研修会等に参加している。 | 市役所や地域包括支援センター主催の研修会や地域ケア会議へは出席するようにしているが、コロナ禍以降、開催回数は少なくなっている。市から介護及びコロナ関連の情報をメールでいただいているほか、行政から提供されるマスク、手袋、抗原検査キット等も有効に活用している。生活保護担当課とも連携が図られており、より良い関係が築かれている。 | |

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を2ヶ月に一度開催。全職員回覧や、カンファレンス等で全従業員へわかりやすく具体的な行為を説明し、抑制にならないよう研修を行って周知徹底している。スピーチロックによる抑制をしないよう職員一同心掛けている。代替の言葉をカンファレンス等で話し合っている。 | 社長、法人内の事業所の管理者、計画作成担当者で構成する身体拘束廃止委員会を2か月ごとに開催している。職員へは会議資料を回覧し周知している。日常の介護の場面でのスピーチロックの問題点についても職員相互に確認し合っている。センサーマットの利用にあたっては、内部で十分に検討した上で家族の同意をいただいている。拘束のない対応、拘束のない日常生活の提供を職員全員で意識しながら介護している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 全職員アンケート(高齢者虐待チェックリスト)や定期的に研修を実施し、結果を踏まえて虐待についての理解を深めている。入浴時等の皮膚状態の変化を確認し、異常ある際は申し送りを行い、見過ごしがないように注意をしている。その他、日常的に発見した場合、職員は管理者に報告をするよう徹底している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している利用者の具体的な事例から、申し送りやカンファレンス等で理解を深めたり、計画作成者等が弁護士さんと直接話を聞いたりしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約時には再度状況確認を行うほか、困りごと、死生観等をお伺いする。何か質問やご意見があればいつでもいいのでご連絡ください、と伝えている。単位改正等により利用料等が改正される際には、その都度ご説明と書類による確認を行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 利用者様からは日常的に、ご家族からは電話やプラン変更時など定期的にご意見を伺っている。昨年度からは、より多くの意見を頂くため、玄関にご意見箱とアンケート用紙を設置し、いただいたご意見は社内で検討の上、運営に取り入れられるよう努めている。 | 利用者や家族からの率直な意見をいただくため、意見箱を設置しているが、なかなか出してもらえない。気軽に声を上げてもらえるよう、利用者や家族と個々の関係を作る取り組みも行っている。利用者の通院支援に関し、家族からの要望に応じて利用者・家族の安心感を高めた事例がある。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | カンファレンスや申し送り等で意見や提案を聞き、運営に反映している。その他にも意見や提案がある場合は、気軽に代表者または管理者と会話ができる環境がある。職員の個々の能力を活かすためにも意見を尊重している。 | 月1回のカンファレンスの際に、職員から出される日常のケアに関する意見や提案は、職員同士で共有され日々の介護に活かされている。また宿直の時間を利用し、宿直時に職員が法人代表に様々な要望や提案を申し出たり、意見を交換したりしている。職員の提案は、掃除用のグローブの増設など、事業所運営に生かされている。 | 職員個人の目標設定と振り返りを継続的に行い、職員のモチベーションを維持・向上するとともに、併せて職員からの提案の機会とするため、定期的な個人面談の実施を検討されることを期待します。 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎月の内部研修や毎日のケアの中で、代表者や管理者等が指導している。指導の際は、個々の特性を見極めて活かすように心掛けている。職員に自己評価をしてもらい向上できるような環境を作っている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 毎月の内部研修や毎日のケアの中で、代表者や管理者等が指導したり、職員同士で声を掛け合ったりしている。外部研修を行った職員は、内部研修で共有を行っている。年に一度、介護技術等の自己評価後、管理者が最終評価を行っている。他にも日常会話の中から職員の能力や力量・性格を把握できるよう努めている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型サービス協会に入会し、今年度からはケアマネ部会にも参加している。現在も市内での感染者が見られ、感染防止の観点から往來を控えている。電話等を活用し、他事業所との連絡を取り合い情報交換ができるネットワークをつくっている。感染対策を徹底して外部研修に参加した際、同業者との交流・情報交換を行っている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入所前にフェースシートを作成し、初回調査時等で情報を共有し不安の抽出に務め、行動や会話の観察を行い安心して過ごせるよう支援している。不安や要望を表現できない利用者については、表情や行動等を観察し、利用者の立場になり、安心が確保できる関係づくりに務めている。 | | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族が不安に思っていることを聴き取り、可能な限り不安の解消に向けた取り組みを行っている。要望についても、しっかりと聴き取った上で、できる限り本人や家族が安心できる関係づくりに努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 担当者会議やアセスメント等での会話や言葉以外にも、環境状態や非言語的な部分も含め、その時に必要としている支援を見極めて対応している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 本人の意志を尊重しながら、無理のない程度に生活する上での役割を持ち、可能なことはできる限り行って頂くようお願いをしている。また、野菜の育て方や、レク活動等で、様々な知恵や知識を教えて頂いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍でも家族との絆を大切にするため、電話以外にガラス越し面会等も行っている。定期受診時は、家族が対応可能な場合、感染対策を万全に行った上での対応を行って頂き、本人と一緒に支えていく関係を築いている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍により外出する機会や外部の方との接触は減っているが、感染対策を万全に行った上で、桜公園等の馴染みのある場所にドライブレクを行っている。市内感染者減少時は、外泊対応も行っている。 | 入居にあたって、家族から馴染みの友人などを聴き取り実態調査書に記録しているほか、フェイスシートを活用して追加情報を把握し、定期的に見直しながら介護支援に活用している。コロナ禍にあつて、馴染みの人や場所について継続的に支援する大変さはあるものの、年末に家族のもとに外泊した利用者が笑顔で事業所へ帰って来てくれていることもあり、今後とも利用者の馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援していきたいとしている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーション活動や話題の提供等を行い、利用者一人一人が孤立せずに交流が持てるよう努めている。職員が仲介し、利用者同士が理解し合い、良好な関係が保てるよう支援している。 | | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 長期入院の為に退所された後も、病院生活の様子や、転院時の相談等に対応している。既に退所されていた利用者様がお亡くなりになられた際は、ご家族様にホームで過ごしていた笑顔溢れる姿や作業姿が写っている写真等を提供している。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常会話等から意向の把握に努め、表現できない方の場合、ご家族の意向や本人の立場に立って把握に努めている。本人と家族間で意向が違う場合は、本人とご家族等で話し合い、最終的に本人が望まれる暮らしができるよう努めている。 | 入居して間もない時期から、利用者の行動や様子を継続的に見守り、働きかけた結果、1年後には本人とのコミュニケーションが図られるようになった事例がある。このような利用者の雰囲気、表情、動きを観察し、想像力を膨らませてケアにあたった成功事例を職員間で共有しながら、利用者の意欲の向上に繋がる介護を実践している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | アセスメントや日常の会話、本人やご家族からの情報、他事業所からの情報等で把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 会話や表情、ご家族の要望、バイタルや入浴排泄介助等の日常生活や医療との連携により、最大限、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人の意向や家族の面会・電話連絡時等に、要望や必要なケアを説明しながら意向を反映させている。訪問看護師や主治医に、必要な医療ケアについて相談している。介護職員から日常生活上で得た情報等を話し合っ反映するように努めている。 | ケアプランの作成にあたっては、本人の意向、家族の希望、主治医等の医療関係者の意見を取り入れて、短期で6か月間、長期で1年間のプランを作成している。職員からの意見や情報は事業所内でのカンファレンスの際に確認し、適宜プランに反映している。園芸、ちぎり絵等の利用が好きなことや趣味を盛り込み、それぞれが前向きに暮らすための介護計画としている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の様子や気づき等をケア記録に記入し、申し送り等で情報を共有している。カンファレンス等で話し合い計画の見直しを行っている。 | | |

令和 4 年度

事業所名 : グループホーム ひなた

2 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 感染防止対策による面会制限を行っている中、ご家族から面会を行いたいとの要望があり、直接本人との接触をしないガラス越し面会を行い、本人と家族が顔を合わせられる機会を設けている。遠方などにより来所が困難なご家族等にはTV電話を活用して本人と通話したり、本人が食べたい物等を伝えて、送っていただいている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 運営推進会議資料回覧の為にお伺した際にお話を聞いたり、地域住民が開催している会議に参加して、地域全体での活動、津波や地震、災害等の際の避難経路や資源の把握に努め、一人ひとりが地域住民であることを理解した上で安全で豊かな暮らしができるよう支援している。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の要望、本人に馴染みのあるかかりつけ医をできる限り変更せず、職員受診対応時等の際に、情報提供や相談等を行いながら信頼関係を築いている。 | 利用者のかかりつけ医は、基本的に入居前からの主治医としている。通院は原則家族が対応し、職員が同行する場合でも、医療機関で家族と待ち合わせするなど柔軟に対応している。通院時には利用者の1週間分のバイタル、排泄の状況、体調の変化、体重等の記録を持参できるよう準備している。受診結果は、個人ファイルに記録し、職員間で情報共有しながら保管管理している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護師が週に1度来所された際、受診結果や日々の心身状態変化や気づきを報告・相談している。利用者に体調変化が見られた際は報告・連絡・相談を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている | コロナ禍でも入院時には可能な限りご家族に付き添い、連携室や看護師等と、入院前後の情報交換や相談等を行っている。病院関係者とは普段の受診時等にコミュニケーションをとり、良好な関係づくりを行っている。 | | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に死生観を本人と家族を交えて話し合い、事業所ができることを説明。全職員、訪問看護師や主治医と連携し情報と今後の対応について共有。死期が近づいた時には再度、本人や家族に可能な限り確認をとっている。死亡後にデスクカンファレンスを実施している。 | 看取りについての指針を作成し、入居契約時に本人や家族に説明を行っている。状況が変化し、重症化した段階において、改めて家族等へ説明し、意思の確認を行っている。昨年は1件の看取りを実施している。往診等に対応するクリニックの医師との連携を図りながら、心のケアや向き合い方などについて、訪問看護ステーションの協力を得て職員の不安除去にも取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的にマニュアルに従い内部研修を行っている。研修を通して急変時の対応方法を再確認し、実際の急変時に落ち着いて対応できるよう、実践力を身に付けている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 避難訓練を地域の方々との協力を得ながら定期的に行っている。事業所地内感知タイプの照明を設置している。地域の方々に避難できることを伝えている。非常災害対策を策定。非常時用の水、ガスコンロを常備している。 | 事業所はハザードマップ上のいずれの災害にも指定されていない。3月と9月の年2回、避難訓練を実施するとともに、日中ではあるが、夜間想定訓練として行っている。地域の人に声がけし、訓練時に見学してもらっている。災害備蓄品として、水、ガスコンロ、カップ麺を備え、常に3日間は対応できる食材を冷蔵庫に備えている。 | 災害対策をより強化するため、訓練時に地域住民との役割分担を明確にして協力関係をより強固にするとともに、訓練を夜間または薄暮時に実施し、避難の際の危険箇所を確認することを期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 利用者の生活習慣や嗜好、表出された感情等を利用者の立場となって尊重し、誇りを損なわないように対応している。トイレや居室内でのポータブルトイレ使用、オムツ交換時は、本人や汚染物が他の利用者の目に触れないよう対応している。 | 利用者の羞恥心が伴う入浴、排泄の場面では、本人の自尊心を傷つけないよう配慮している。尊厳については利用者個々の思いを察し、職員自らの想像力を膨らませながら介護しているほか、利用者への敬意や尊厳を損ねないよう、利用者には敬語を使うよう職員を指導している。利用者の個人情報が含まれた書類は事務室で適切に保管・管理している。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 毎日牛乳を希望される利用者について、牛乳配達への対応をご家族に依頼している。利用者から食べたい物の希望がある場合は、できる限り希望に添えるよう、食事リクエスト表を作成して提供するよう努めている。普段の活動等でも、参加の可否が自己で決定できるように対応している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一人ひとりの生活習慣・生活歴を把握し、できる限り本人が望む暮らしに寄り沿って、家で過ごされていた環境に配慮しながら安心して生活できるよう、レク活動等に参加されたくない場合は、本人の意思を尊重して対応している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 自己決定ができるよう、本人希望の衣類に着替えられるよう支援している。外出時には帽子やマフラー、衣服や髪型を整え、おしゃれできるよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 好みの食物を把握し、バランスを考えながら提供できるように努めている。玉ねぎの皮むきや、もやしのひげ取り等を行ったり、食事前はテーブル拭き、食後はお盆や食器拭きを行っていただいている。 | 常に利用者の食事の好みを聴き取りしたうえで、食事を作っている。食事の基本は、主菜と副菜2種、汁物としており、彩りも鮮やかに食欲をそそる調理を心掛けている。買い物は職員が行っているが、スーパーのチラシを見て食べたいものを利用者と一緒を選んでいく。食事作りには、利用者も参加し役割をもって関わり、季節ごとの行事食や、道の駅での外食、ハンバーガーショップのテイクアウトなども取り入れ、常に食事を楽しんで貰えるよう努めている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 状態の観察、食事量や水分量の把握や体重の記録、訪問看護師や主治医にも報告しアドバイスや指導をしていただいている。十分な量が摂取ができない場合はご家族、訪問看護師や主治医と相談の上、栄養補助食品を提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、本人に合わせた対応で見守りや介助を行い、口腔ケアを行っている。状態が変化した場合や義歯の状態にも気を使い対応している。週3回、薬剤を使用した義歯洗浄を行っている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄記録による排泄周期の把握を行って声掛けをしたり、表情や会話、態度等も併せて観察して、本人に合わせた誘導や声掛けを行っている。また、本人の訴えや記録から状態を把握し、医師へ下剤等の相談を行い調整して頂いている。 | 個人ごとの排泄記録を作成して排泄パターンを把握し、トイレ誘導の声がけも一人一人のタイミングをみながら行っている。トイレに行きたいかどうか、利用者の表情を読み取って誘導する場合もある。ポータブルトイレを使用する場合でも、居室内に置いたままにしないよう配慮している。 | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 適度な運動と乳製品等の水分補給、食物繊維が多く含まれている食品の提供や、ストレス発散ができるレク活動を行っている。排便の促しの為に腹部マッサージを行ったり主治医や訪問看護師等と連携してアドバイスも頂いている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 本人から入浴の希望を聞き、本人が入浴したくない場合は、翌日に対応。時間も可能な限り相談に応じ決めている。事業所でシャンプーやボディソープを用意しているが好みのある方は自分で用意しても対応している。週2回入浴は入浴できるように調整している。 | 入浴頻度は、週に2回のペースで行っており、月曜から土曜の午後の時間帯に一人ずつの入浴としている。現在は、入浴を嫌がる人はいないが、入浴したくない場合でも無理強いすることなく、利用者の気持ちに沿って柔軟に対応している。季節により、菖蒲湯、柚子湯とするほか、身体状況の確認や入浴時を利用した一対一の対話にも努めている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は午睡時間を設けて自由に休息ができるよう対努めている。夕食後は落ち着いてテレビ鑑賞をされ、会話を楽しまれたりしながら不安の解消に努め、心地良い疲労感で安眠できるように対応している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 服薬管理は職員が行っている。服薬情報を個人ファイルで管理して処方変更等の情報共有、状態の確認や様子の観察等を行っている。訪問看護や医師、調剤薬局から服薬のアドバイスをもらっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 日課であるラジオ体操や廊下歩行、食器拭きや、お盆拭き、衣類畳み等の役割を持ち、張りのある日々を送られている。アセスメントで生活歴や嗜好品や趣味を把握。普段から希望を聞き対応したり、代わりに買い物に行ったりしている。季節にあわせた食事の提供も行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 感染症対策を徹底した上での通院対応や外泊、レンタカーと社用車を使用し、全利用者で市内の公園でお花見を楽しんでいたたいている。 | コロナ禍により外出を制限されているものの、感染対策を講じた上で、ドライブや西ヶ丘公園に花見に出かけている。日頃は近隣を散歩し事業所の建物付近にベンチも設置して休み処も確保している。プランターで茄子、ピーマン、胡瓜、トマトを栽培し、手入れや水遣り、収穫に利用者も参加するなど、頻回な外出場面の工夫に努めている。 | |

事業所名 : グループホーム ひなた

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 本人や家族の希望を聞きながら調整を行い、希望者には小銭程度の手持ち金を所持していただき、買い物を楽しめるよう努めていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止の為、買い物は職員が代理で立替対応している。希望者は、金庫にて保管している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人使用している携帯電話や、事業所の電話にて家族と会話してもらうことがある。あらかじめ家族と話し合い、本人の要望に合わせて電話対応している。スマホにてLINEや動画を送るなどの対応もしている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 大きな窓からはたくさんの陽が差し込むホールは、外の風景が目の前に広がる。ソファーに座り、朝日や空、森を眺めながらゆったりと過ごす静かで穏やかな共有スペースとなっている。季節を感じる飾りつけや、皆さんで作ったものを置いたりしている。部屋には今まで使っていたものを持ってきていただき安心して過ごせるようにしている。 | 共用ホールの真ん中には大きな食卓テーブルと椅子があり、ここで利用者が食事を摂っている。座る位置はほぼ決まっており、利用者同士の関係性にも配慮している。壁には季節ごとの手作りの装飾が施され、訪問時にはひまわりの絵が装飾されてあった。外からの採光がよいので、日差しが強くなり過ぎないようにカーテンで調整しているほかエアコンを整え、ソファーで寛ぐことが出来るなど、心地よい空間づくりに努めている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 全利用者が自由に会話できるスペースや、独りで過ごせる場所づくりを、本人に合わせて工夫をしている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室の窓から海や森等の自然を一望できて解放感がある。エアコンや換気扇も各居室に設置されており、室温管理もできている。テレビや仏壇等、なじみの使い慣れたものを持ってきていただくよう、本人や家族と相談して対応。今まで使用していたベッド、家族写真や手紙、当ホームでの写真等を設置した対応をしている。 | 居室は、ベッド、キャスター付きハンガーラック、カーテン、エアコン、換気扇が備え付けとなっている。このほか、利用者の持ち込みにより、ダンス、カラーボックス、テレビ、椅子が置かれている居室もある。居室のレイアウトは、利用者の体調や家族からの意見で決めており、思い思いの居室づくりを行っている。仏壇を持ってきている方、写真や趣味の作品を持ってきている方もいる。居室の明るさは個人の好みに合わせて調整している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 残存機能を活かした軽作業(洗濯物畳みやテーブル拭き等)を、無理なく安全に行えるよう配慮している。 | | |